

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	自然災害についてのマニュアルの見直し、訓練の実施も計画し取り入れていく必要がある。	火災訓練については年2回実施している。自然災害についてもスタッフ間での連絡体制の確認、固定電話(携帯電話)不通などを予測した訓練などを実施したい。	新型コロナウイルス感染状況に注意しながら訓練実施の計画を行う。火災訓練時に避難訓練はもちろんだが、スタッフ間の連絡体制については自然災害仮定とするなど工夫しながら取り組んでいく。	6ヶ月
2	10	新型コロナウイルスについてのマニュアルを進める必要がある。	現状の感染症対策マニュアルを元に、新たにグループホーム木綿葉としての新型コロナ感染症マニュアルの整備を行う。	木綿葉看護スタッフ会議、定例会議で検討していく。必要であれば新型コロナ感染症マニュアル作成委員会など立ち上げてマニュアル整備に取り組んでいく。	3ヶ月
3		重度化や終末期に向けた方針の共有と支援について	重度化や終末期に向けた支援について、出来るだけ入居者、家族の意向に応えられるような支援を続けていく。	現在でも医療中心の生活になった場合などはかかりつけ医へ相談し、必要であれば在宅医療機関へ繋げてもらい、連携しながらグループホームでの生活を続けていけるように支援していく。定例会議などで振り返りこの支援を続けていく。	随時
4		理念の振り返りについて	新年度を迎えるにあたり定期会議で理念の振り返りを行う。	4月開催定例会議で議題に上げ理念の振り返りを行う。	1ヶ月
5		事業所と地域とのつきあいについて	コロナ禍における利用者と地域の繋がりについて振り返る必要がある。	新型コロナ感染者状況に注意しながら、三密を避けて活動再開できるように努めていく。	コロナ禍を踏まえて随時継続

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。